

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1790100315		
法人名	株式会社 メディカルケア		
事業所名	グループホーム 暁		
所在地	石川県金沢市神谷内町子162番地1		
自己評価作成日	平成30年2月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人シナジースマイル		
所在地	金沢市千木町129番地		
訪問調査日	平成30年2月14日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

建物は平屋であり、ユニット同士や併設の小規模多機能事業所と連携し、イベントの開催や外出支援などを行っています。  
理学療法士による膝腰しゃんしゃん教室やプロのシェフによる本格的な料理の提供も行っております。また、提携医療機関は代表者経営の医院であり、24時間対応をはじめ代表者自ら2週間に1回の訪問診療や毎週の訪問看護もあり、医療連携体制が充実しています。  
歯科の先生も2週間に1回程度、訪問診療に来られております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

平屋の建物で小規模多機能事業所が併設となっている。経営者が協力医療機関でもあり、利用者の急変時の相談、支援が24時間いつでも得られ、利用者や家族の安心感に繋がっている。事業所の理念である「利用者の為に仲間と共に豊かなケアを目指します」を掲げ、利用者の豊かな暮らしとはどういうことなのか、「業務(ケア)改善シート」を活用し、職員から出された改善案は日々のケアに活かされるように取り組んでいる。また、「利用者の言葉にできない真情」について、職員全員で話し合い、利用者と同じ向き合う支援として個別の外出支援を始めた。一人ひとりの満足と笑顔に繋がることを目指し楽しみの持てる生活となるよう努めている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
60	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	67	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
61	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,42)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	68	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
62	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:42)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
63	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:40,41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
64	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:53)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	71	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
65	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	72	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
66	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『利用者様の為に 仲間と共に 豊かなケアを目指します』の理念のもと、利用者様に楽しい暮らし方を聞きながら、実践できるよう努めている。 また、月1回の会議では、利用者様一人一人の豊かな暮らしとは、どのような事を考、え話し合い実現できるよう努めている。	「利用者様の為に、仲間と共に、豊かなケアを目指します」の理念は昨年と同様であり、新人には詳しく説明している。毎月のフロア会議で皆で唱和し、利用者の一人ひとりの思いが何なのか、皆で話し合い、要望が叶えられる様、今年度は誕生日に「～に行きたい」が実現できるよう個別外出に重きを置き実践した。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏はカブトムシ祭りを開催し、カブトムシをプレゼントした。秋には文化祭で近所に住まいの折紙の先生を招き、折紙教室を開いたり、ナースのなんでも相談所コーナーを設け、多数の参加があった。 理学療法士による体操教室を行い、参加を呼びかけている。 近所の保育園の発表会への招待にも参加している。 色々な年代層の方に施設を知って頂けるよう努めている。	事業所の行事には子供から、高齢者まですべての年代の方に来てもらいたいとの目的で、夏祭りはかぶと虫祭りを行い、子育て世帯も集まった。文化祭では折り紙教室や体操教室、「ナースの何でも相談コーナー」を設け、200人以上の多くの人が集まり、施設への理解も深まった。その日に入居を希望された方もあった。また地域行事参加の誘いもあり、ボランティア会には作品を出展し、保育園の表現会への参加は利用者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	文化祭には、地域交流室にて、恒例となった地域のボランティアの会の作品展覧会を行った。また運営推進会議では地域民生委員とのコミュニケーションも図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設での取り組みや、サービスの状況などを報告し、運営推進会議で出た意見やアドバイスを、サービスの向上に活かしている。意見や要望の言いやすい雰囲気づくりに努めていきたい。	運営推進委員会は2か月毎に民生委員、包括職員、市職員、他グループホーム職員、家族、利用者の参加で行われている。施設の状況や取り組み内容を報告し、意見やアドバイスをもらい、ケアのサービス向上に活かしている。施設の事情を知ってもらう機会でもあり、今後は認知症の方への対応についての理解や災害、消防訓練への協力と参加が得られるように取り組んでいく意向である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2か月に1回の運営推進会議では、金沢市介護保険課の職員の方や地域包括支援センターの職員の方に出席して頂いている。	運営推進委員会に市担当職員に参加してもらい、双方向の話し合いを行い、日頃より、報告書類の確認や困った時はすぐ連絡し対応してもらっている。また包括職員とも頻りに交流があり、協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	契約時に身体拘束をしない旨を伝えている。他ユニット、事務所、小規模多機能と連携し、できる限り本人様が容易に行動できる空間をつくっている。	身体拘束やスピーチロックについて毎月の会議で職員同士確認し合い、関わりの中で注意し合っている。法人グループ内の研修には必ず参加し事業所内でも勉強会を行っている。家族、利用者の了承を得て夜間のみ、センサーマットを使用している方がいる。帰宅願望の強い方等、個別外出や、隣接の小規模多機能施設にも協力を得て過ごせるようになっており、閉塞感の解消に向け努力している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	目標を掲げ、スピーチロックや虐待にあたる行為がないかの確認をしながら介護を行っている。職員同士で注意し合うようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	顧問弁護士を招き、地域の方やスタッフが参加し、成年後見制度について学んだ。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、契約者と共に文書を読み、その際は噛み砕きながら説明している。納得したうえで次の項目に進んでいる。また、介護保険等での変更があれば説明をし、その都度サインを得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	おおむね2か月に1回、利用者様・家族様、民生委員、町会長、地域包括支援センター職員・市職員を交えて、運営推進会議を開催し、意見・議事内容を記録に残している。	契約時に苦情受け付けや外部機関への相談窓口について説明している。家族は週1回は面会に来られ、話しやすい雰囲気を心掛け、要望等話し合い対応している。最近では食事の形態変更により食べやすくなり、外出の個別支援についてなど意見が活かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送り時や会議・カンファレンス等にて、情報を共有している。業務(ケア)改善シートを使用し、意見や提案を聞く機会を設けている。	職員の意見やアイデアをケア改善シートを利用し、職員に周知している。最近では作業時に誤って茶碗を割ってしまう方に対して、持ちやすいものへ変更を行う等、細かな配慮が行き届いている。また職員の処遇改善について、資格手当をもうけ、キャリアアップを目指す仕組みがある。外部研修なども積極的な参加を勧めている。	

自己	外部	項目	自己評価 実施状況	外部評価	
				実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心が持てるような資格手当を設けている。また、処遇改善手当では勤務経過年数別に手当を設定している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を受ける支援や機会を確保している。また、施設内でも研修を行い、育成に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の部会や、研修会等がある際には参加を勧めている。運営推進会議では、近くにあるグループホームの施設長に出席して頂いている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に利用者様と直接会い、思いを聞いている。利用者様が自分の思いや、今置かれている現状を把握できていない場合でも本人とのコミュニケーションから思いを引き出すよう工夫している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今現在の状況を聞き取りし、何に困っているかを把握する。また、思いを聞き、相談しやすい雰囲気づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所に至ってしまった後ろめたさを感じている家族様もいる。本人様、家族様が安心できるような関わりに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の生活リズムを把握しながら、洗濯物干し、たたみ、掃除や皿洗いを一緒に行ったり、季節ごとの生活文化や歌を教えてもらうなど相互に支えあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1回、家族様にお便りを出している。また、入浴を嫌がっていた方には家族様の協力を得て、入れるようになった。今後更にリラックスして入浴できるよう声かけや雰囲気づくりに努めていく。報告だけでなく、相談し、協力を得て頂けるような関係づくりに努めている。ターミナルの方の家族様には、毎日状態報告をし、情報を共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様の協力を得て、本人様の行きたい場所や馴染みの美容院へ行っている。	入所時に詳しく家族に聞いたり、利用者との生活の中で、追々に聞いている。近隣の方が多く、入居者同士で仲良くしていたり、馴染みの美容院に行ったり、車椅子で近所の友人に会いに行く人もいる。また家族以外にも、近隣の方や友人の訪問も多く馴染みの人との関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の口論があった時は、職員がフォローしている。安易に距離を置くのではなく、どのようなフォローや関わりをしていくか職員で話し合っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設への入所等の契約終了時も「何かあれば相談してください」と相手施設や家族様に伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	誕生日には、本人様の願いが叶えられるような催し物を実施している。今後は、当たり前の生活の中でも願いや意向に沿った暮らしができるように努めていきたい。	利用者の意向の把握に重点を置いており、願いが叶えられるよう家族と話し合い実施している。普段の食事は少ないが外食に行くといっぱい食べたり、飼っていた犬の事を気にしている人、美術館や博物館に行きたい人、他施設に入所している母親に会いに行きたい人等、一人ひとりの希望が実現できるようにしている。また意思疎通困難な方には表情やしぐさ、生活歴などから推測し汲み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの際に、本人様、家族様より、職歴、生活、出身について確認している。また、面会時等で以前の暮らしの状況を把握するよう聞き取りしている。		

自己	外部	項目	自己評価 実施状況	外部評価	
				実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	まず一緒に作業を行い、何ができて、何が不得意かを把握する。日頃のケア、記録から生活リズムも把握していく。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様、家族様の意向を踏まえて計画作成している。スタッフ皆で意見を出し合い、プランに反映させている。但し、不十分な点もあるため、今後は更にチーム力を高めて、プランの作成に努めていきたい。	利用者の担当が決まっており、介護計画は本人、家族の意向を中心に半年おきに立られているが、状態変化や3か月おきにモニタリングされ、新たな目標が決まると立て直している。	今後は目標を具体化し、本人の自信に繋がるような達成可能な設定となるよう努めていきたいと希望している。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	早番、日勤、遅番、夜勤の変則勤務である。出勤時には、引継ぎを行い、情報の共有を図っている。また、同時に申し送り簿や個別ケース記録の確認も行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様、家族様の希望や状況により、系列の特別養護老人ホームや他施設を紹介している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのスーパーへの外出や、近所の方による折り紙教室を実施しているが、地域資源の活用はまだまだ不十分である。今後は、個々の行きたい場所、やりたい事ができる機会を増やしていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	より安心・安全に過ごして頂くために代表である池野内科クリニックへの移行の説明を行っている。また、専門医への受診は家族様の協力を得ながら継続している。体調不良時は早期対応に努めている。	入所契約時にこれまでのかかりつけ医の継続や協力医療機関への移行について、緊急時対応病院の説明を行っている。専門医への受診には家族の協力を得ている。代表が協力医な為、24時間対応可能で、訪問看護も週1回入っている。また隣接の小規模多機能には3名の看護師がおりいつでも相談できるようになっている。状態報告は文書にして家族に報告、出された指示にはすぐ対応できるように職員に周知している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護が入っており、利用者様の状態確認を行っている。また、必要時には主治医に報告し、指示を得ている。医療面で迷うことがあれば訪問看護師や併設の小規模多機能ホーム梧の看護師に相談している。更に『困った時の強カナースお助け隊』というナースチームの連絡先が周知されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携医療機関またはカルテがある病院への入院を勧めている。(契約時に緊急入院先を聞いている)入院時には、サマリーと薬情を持参している。入院中はソーシャルワーカーや看護師と連携を図り、退院時には送迎支援も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りの説明を行い、その場でサインを頂くことが多い。『まだ考えられない』という場合には、別の機会としている。ターミナルの方が1名おいで。職員の知識不足から不監視にならないよう医療面・注意点を申し送りしている。	入所時に終末期のあり方について施設が対応できる範囲を説明し同意書を作成している。。終末期について主治医、家族と相談し、医療の方向性が決定したら、利用者ごとのマニュアル(状態に応じ分かりやすく)を作成し職員間で周知し対応している。家族は2～3泊されることが多く職員皆とお見送りが行われている。現在もターミナル状態の方がおり自然な形で経過観察中となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急の際の手順を職員の見やすい場所に張り付けてある。また、適宜主治医や訪問看護師より指導を受けている。		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	状態に応じた緊急時の手順を張り付けてある。また、定期的に訪問看護師より、指導も受けている。緊急時の連絡網も整備している。	緊急事態対応マニュアルや緊急時の連絡体制を整備し職員に周知している。研修としての時間は設けていないが、日常的に利用者ひとり一人の体調や気になることについて、看護師よりその都度指導を受け、迅速に対応できるようにしている。	
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	いけの内科クリニック(主治医 訪問診療月2回)と浅ノ川総合病院及び金沢西病院が協力機関となっている。	代表者の経営する医院とは24時間いつでも緊急時の支援が得られる体制で、歯科医による往診支援も得られている。同法人の福祉施設とは日頃から事業所の情報を伝え連携を図り、いつでも協力が得られる体制となっている。	
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	夜間帯は1ユニット1人の配置で、計2人の夜勤である。横並びのユニットで行き来もしやすくなっており、連携を取りながら勤務している。隣には小規模多機能ホーム梧があり、応援体制も整っている。また、町内には職員が3名いる。	夜間の勤務は各ユニット毎に1名で計2名となっている。利用者の状態に応じて、互いに相談や協力を行い、併設小規模多機能型ホームとの夜勤者とも緊急時の協力が得られる体制となっている。また、5分以内に駆けつけられる近隣の職員が3名おり、応援体制も確保されている。	

自己	外部	項目	自己評価 実施状況	外部評価	
				実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防訓練を実施し、避難方法を確認している。同時期に消火器、火災報知機などの災害設備の点検も行っている。	避難訓練は併設の小規模多機能型事業所と合同で年2回行っている。避難経路の確認、通報等の訓練を行い、職員全員が災害時に対応できるように取り組んでいる。地域の方の参加がまだ得られておらず、運営推進会議での呼びかけを継続し、事業所への理解が得られるように取り組む意向である。	
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	実体に合ったマニュアルを整備し、災害に合わせた避難方法の確認を行っている。	火災、地震、土砂災害時の対応マニュアルが作成され、職員全員に周知し防災設備の点検も実施されている。乾物食品や飲料水の備蓄品とガスコンロや懐中電灯、ラジオ等が違う場所に置かれており、備蓄品の確認と職員への周知がなされていない。	事業所に必要な備蓄品について、職員全員で話し合いリスト化し、利用者の病状や服薬情報を整備し、緊急時に対応できるように持ち出し袋の準備を期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今年度の目標の一つにスピーチロック防止という目標がある。人格を尊重したその方に応じた声かけができるよう努めている。	利用者ひとり一人の人格を尊重し、誘導の声かけの工夫を行い、人前であからさまに介護をしないよう、職員間で注意し合い、プライバシーの確保の徹底に取り組んでいる。	
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行動の一つ一つに本人の好きなように生活が送れるよう自己決定を促している。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室やソファで休んだり、テレビや新聞、他利用者様と会話をするなど、自由に過ごしている。レクや入浴、食事の時間は決まっているが、自己決定してもらっている。		
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時と入浴後にブラシで整髪している。衣装は出来る限り、本人と選んでいる。衣類の重ね着やパジャマを着ることもあるが、声かけの工夫をしながら季節に応じた衣類が自分で選べるよう支援している。		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と一緒に食事の盛り付けを行ったり、誕生日の際はケーキづくりから楽しんで頂いている。	食事の準備は利用者の力量に応じて、盛り付けや食器洗い、テーブル拭き等役割を持って手伝ってもらっている。誕生会など特別な日は手作りのケーキで祝い、クッキーづくりや白玉ぜんざい等、利用者の希望に応じて、お茶の時間も楽しめるよう工夫している。また、昼食はプロのシェフに作ってもらい朝・夕の食事は職員が調理している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調不良時の早期発見のサインの一つとして、食事量・水分量は注意してチェックしている。		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月2回の歯科医の訪問診療があり、口腔内を診てもらっている。毎食後、口腔ケアを行っている。		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限り、トイレでの排泄に努めている。中には2人介助にて行っている方もいる。	排泄チェック表をつけ利用者の排泄パターンを職員全員が把握し、必要な時にさりげなく声かけしている。パットの工夫や介助が必要な方には、2名の職員で行うなど、トイレでの排泄支援に取り組んでいる。	
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の際は、まず、水分補給や歩行を促し様子を見る。それでも出ない場合は(-3日以上等)看護師に相談し、医師の指示にて、適切な量の整腸剤を内服してもらう等行っている。		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	安心して気持ち良く入浴して頂くために、状態・状況に応じ、リフト浴にて入浴している。また、入浴したくないと言われれば時間帯や日時を本人様に確認し、変更している。	入浴日は決まっているが、利用者のその日の状態に応じて、声かけのタイミングや時間帯を変更するなど、気持ちよく過ごしてもらえるよう配慮している。また、利用者の身体状態に応じてリフト浴に変更し安全に入ってもらい、柚子湯や菖蒲湯、入浴剤等の変わり湯で、入浴が楽しめるよう工夫している。	
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	もともと眠れない方や眠りの浅い方もおり、無理強いはせず、温かいお茶を飲んでもらったり、話を聞いたりして、一緒に過ごしている。睡眠薬はふらつきが作用にあるため、できる限り、睡眠薬は使わず、精神的に安心してもらえるように工夫している。シーツ交換は週に1回行い、掃除やベッドメイキングは適宜行っている。		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェックは毎回している。服薬介助をした職員が必ずチェックしている。		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テーブル拭きや食器洗い、おやつ準備を一緒に行っている。ここが仕事場と思われている方もおり、仕事という役割をもって過ごして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価 実施状況	外部評価	
				実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ、散歩、買い物、外食など少人数での外出を柔軟に支援している。	天気の良い日は散歩に出かけ地域との交流の機会を持つようにしている。また、季節に応じて花見や紅葉ドライブにも出かけるようにしている。本年度から、利用者の希望に応じた個別の外出支援を開始した。利用者の思いが叶えられ、満足に繋がるよう職員全員で取り組んでいる。	
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	イベントの買い出しと一緒に行くことはあるが、お金の所持や使用はできていない。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様に同意を得て、電話をしたいと希望があれば遠慮なくつないでいる。		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭を眺める利用者様が多く、なるべく季節のお花を感じられる様にしている。温度・湿度の管理を行い過ごしやすい環境づくりを行っている。	それぞれのユニットフロアからは中庭が眺められるようになっている。各ユニット毎に利用者の状態に応じて、食卓テーブルやソファの配置を変え、自由にくつろげるようになっている。室内の温度や湿度調整を行い、飾り付けは大人の感覚となるよう配慮し、共用空間が居心地良く過ごせるようにしている。	
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでは、食事の席は決まっており、居場所があることで安心する利用者様もいる。フロアにはテーブル席の他にソファがあり、好きなように座ってもらっている。また、廊下には椅子を設置している。		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約時、家族様に馴染みのものを持参して頂くよう説明している。また、状態・状況に応じて、レイアウトを変更する際は本人様、家族様と相談している。	入所の時に自宅で使い慣れた馴染みの家具を持ってきてもらうようお願いしている。整理タンスやテレビ、絵、椅子等が、自宅から持ち込まれ居心地良く過ごせるように配慮している。また、家具は本人の動線、歩行状態に合わせて配置し安心して生活できるよう工夫している。	
59		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の身体にあった車いすや歩行器を使用している。トイレには目印はないが、わからない方が居た為「トイレ」と貼っていたり、居室がわからない方の為に表札を付ける工夫をしている。(幼稚にならないよう注意している)		